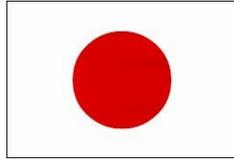




ナミビア通信

～のんびり(Nombili)～



青年海外協力隊
岩塚善哉
1st. Dec. 2018 No.4

2018年も1か月を切りました。一区切りに1年間を振り返ってみるのもいいかもしれませんね。さて、クリスマスの時期が近付いてきており、お店ではクリスマス商品が並ぶようになってきました。クリスマスといえば、日本では、「冬」や「雪」という言葉が思い浮かび寒さを実感する行事になります。しかし、ナミビアでは夏に向かってさらに暑さが増す時季となり、「夏」「暑い」という言葉があてはまる今までにないクリスマスになりそうです。

セミナーに参加しました。(I attended a Seminar)

「Arts education Seminar」というセミナーに参加しました。私たち日本を含めて、20カ国以上の国々の芸術家や先生方が参加しており、各国の教育の取り組みの紹介やワークショップ(体験型学習)などがありました。



[日本のカレーライス好評!]

私は日本の教育について発表をさせていただきました。また、それぞれの国の紹介コーナーがあり、日本のはっぴや浴衣を着て、けん玉や竹とんぼなど日本のおもちゃの紹介をしました。また、日本のカレーライスをつくり、多くの国々の方に味わってもらいました。



[緊張の面持ち]

Walvis Bay, Swakopmund について (About Walvis Bay and Swakopmund)

セミナーの参加にあたり、Walvis Bay という街に移動をしました。私のいる Okahao から約 1000 キロ離れており、州の車で約 11 時間かけて移動しました。近くには Swakopmund という有名な街も訪問したので紹介します。この二つの街は歴史的な場所で、Okahao と比べて同じナミビアでも全く違う風景に驚かされました。

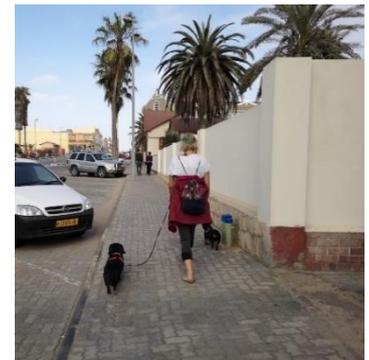


Swakopmund はヨーロッパのような街並みが続いており、多くの白人のナミビア人(元ヨーロッパ人)が住んでおり、ヨーロッパからの観光客も多数います。私のいる Okahao には、ほとんど黒人しかいないため、本当に同じナミビアなのかと錯覚を覚えるほどでした。



[ヨーロッパのような街並み]

ナミビアは植民地としてドイツによって占領されていました。Walvis Bay は寄港地として利用されており、ヨーロッパ人によって港湾が造られました。



[白人のナミビア人が多い]

世界大戦のドイツの敗戦後、南アフリカによって、植民地化されたナミビアは、1990年に独立をしました。しかし、南アフリカはこの場所の有用性が高いことから、1994年まで占有を続けた後、はじめてナミビアとしての土地に戻されました。

美しい街並みが続く一方で、少し離れた場所に行くと、スラム街のような場所があり、トタン屋根で暮らす多くの人々がおり、世界で最も貧富の差が激しい国の一つというものを目の当たりにしました。



[このような建物に多くの人々が暮らす]